

## 博物館所蔵「青柳鷹之介氏収集三浦半島産甲虫類コレクション」の再検討

齋藤 理\*・内船俊樹\*\*

Reexamination of the Miura Peninsula beetle collection assembled by Mr. Takanosuke  
AOYAGI in the Yokosuka City Museum

Osamu SAITOH\* and Toshiki UCHIFUNE\*\*

キーワード: 甲虫目, 三浦半島, 再同定, 新産地記録

Key words: Coleoptera, Miura Peninsula, reidentification, new distributional record

横須賀市自然・人文博物館所蔵「青柳鷹之介氏収集三浦半島産甲虫類コレクション」の再同定を行った。収蔵時に作成された唯一の目録をもとに、16種を除外し、17種を新たに追加した。これにより、本コレクションは39科169種223点の標本から構成されることとなった。追加された種のうちニシノホソケシマグソコガネ *Trichiorhyssemus nishinoi* Ochi, Kawahara et Inagaki は神奈川県初記録、ハギキクイムシ *Xyleborus glabratus* Eichhoff は神奈川県内の既知の分布記録に三浦半島を新たに加えるものである。

A taxonomic re-identification was conducted on the Miura Peninsula beetle collection assembled by Mr. Takanosuke AOYAGI, housed at the Yokosuka City Museum. Based on the catalogue, which was compiled at the time of the collection's initial deposition, 16 species were excluded and 17 species newly added. As a result, the revised collection now consists of 223 specimens representing 169 species across 39 families. Among the newly added species, *Trichiorhyssemus nishinoi* Ochi, Kawahara et Inagaki represents the first record for Kanagawa Prefecture, while *Xyleborus glabratus* Eichhoff represents a new addition of the Miura Peninsula to the existing distribution records within the Prefecture.

### はじめに

本稿における「青柳鷹之介氏収集三浦半島産甲虫類コレクション」とは、渡・内船(2012)に収録された甲虫類(昆虫綱コウチュウ目)43科168種222点(当時)の標本群である。本コレクションは、三浦半島を中心に神奈川県内のコウチュウ目標本、とりわけカミキリムシ類を精力的に採集された青柳鷹之介氏(1924–2007)によって採集され、同氏の逝去後に神奈川県昆虫談話会の有志による整理作業を経て

横須賀市自然・人文博物館に寄贈された、カミキリムシ類を除く三浦半島産甲虫類であり、収集範囲は1969～2004年、同氏が居住していた逗子市を中心に横須賀市、三浦市、三浦郡葉山町にわたる(渡・内船, 2012)。

このたび、本コレクションの再検討にあたり分類情報の更新を含む再同定を行ったので、その他の正誤も含めて報告する。前出の渡・内船(2012)は、のちに発行された神奈川県産甲虫類の目録(平野ほか, 2018)にも引用されていることから、本報告は

\* 神奈川県昆虫談話会

\*\* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95

原稿受付 2025年11月29日 横須賀市博物館業績 第809号

Corresponding author: Toshiki UCHIFUNE, Toshiki-uchifune@city.yokosuka.kanagawa.jp

平野ほか (2018) の一部の種について、三浦半島内の分布情報を更新するものである。

## 方法

再同定は著者の一人、齋藤が行ったが、オビモンヒョウタンゾウムシ (YCM-I 32417) については野津裕氏 (神奈川県昆虫談話会) に再同定していただいた。再同定には、個々の分類群の項に記した図鑑や総説、原記載、比較標本などを参照した。

再同定によって一部もしくは全ての標本に変更が生じた種について、更新情報を記述するとともに、同定や分類に関するコメントのほか、新産地記録等に該当する場合はその旨記す。YCM-I に続けて記す数字は横須賀市自然博物館昆虫資料の登録番号であり、各登録番号に対応する採集データは一部の種を除いて省略したので、渡・内船 (2012) を参照いただきたい。なお、渡・内船 (2012) 未掲載の標本 1 点については、登録番号とともに採集データも付して記載することにより、本コレクション目録への追加資料とする。第 1 図には、渡・内船 (2012) 掲載種のうち変更・追加された種について標本各 1 点を掲載する。

## 結果

### クワガタムシ科 Lucanidae

#### コクワガタ *Dorcus rectus rectus* (Motschulsky)

YCM-I 32227–32230 のうち、YCM-I 32227 は岡島・荒谷 (2012) を参照し、大腮の内歯の形状などの特徴により、**スジクワガタ *Dorcus striatipennis* (Motschulsky, 1861)** の♂に再同定した (第 1 図 a)。

#### ノコギリクワガタ *Prosopocoilus inclinatus inclinatus* (Motschulsky)

1♂, 逗子市, 19740703, YCM-I 32423.

渡・内船 (2012) に未掲載であった上記の標本を追加する。これで本種は YCM-I 32226, 32423 の 2 個体となる。

### コガネムシ科 Scarabaeidae

アイヌケシマグソコガネ *Rakovicius ainu* (Lewis)

YCM-I 32232–32234. 岡島・荒谷 (2012) を参照し、上翅条溝が間室よりも明らかに狭いことや、体型や

前脛節外歯などの特徴により、**セマルケシマグソコガネ *Psammodius convexus* Waterhouse, 1875** に再同定した (第 1 図 b)。なお、渡・内船 (2012) ではアイヌケシマグソコガネの属名を *Psammodius* としたが、*Rakovicius* に所属が変更されている。

コケシマグソコガネ *Myrhessus samurai* (Balthasar)

YCM-I 32235. 岡島・荒谷 (2012), Ochi *et al.* (2020) およびホソケシマグソコガネ *Trichiorhysses asperulus* (Waterhouse, 1875) の比較標本を参照し、前胸背板の横隆起条および上翅間室の剛毛がそれぞれ認められることや、前胸背板基部が強く狭まることなどの点でホソケシマグソコガネによく似ているものの、上翅各間室の 2 列の顆粒状突起のうち、外側の突起が明らかに大きく、少なくとも上翅基部 2/3 において内外の突起が癒合しないことや、上翅間室の剛毛はより短いことなどの特徴により、**ニシノホソケシマグソコガネ *Trichiorhysses nishinoi* Ochi, Kawahara et Inagaki, 2020** に再同定した (第 1 図 c)。なお、渡・内船 (2012) ではコケシマグソコガネの属名を *Rhysses* としたが、*Myrhessus* に所属が変更されている。ニシノホソケシマグソコガネは Ochi *et al.* (2020) により長崎県壱岐から記載された種で、神奈川県からはこれまで未記録であった。以下に改めてデータを示す。

1ex., 逗子市 (逗子海岸), 20000401, 青柳鷹之介採集, YCM-132235.

アオハナムグリ *Cetonia (Eucetonia) roelofsi roelofsi* Harold

YCM-I 32240. 岡島・荒谷 (2012) を参照し、頭楯前縁が縁取られることなどの特徴により、**ナミハナムグリ *Cetonia (Eucetonia) pilifera* (Motschulsky, 1860)** に再同定した (第 1 図 d)。

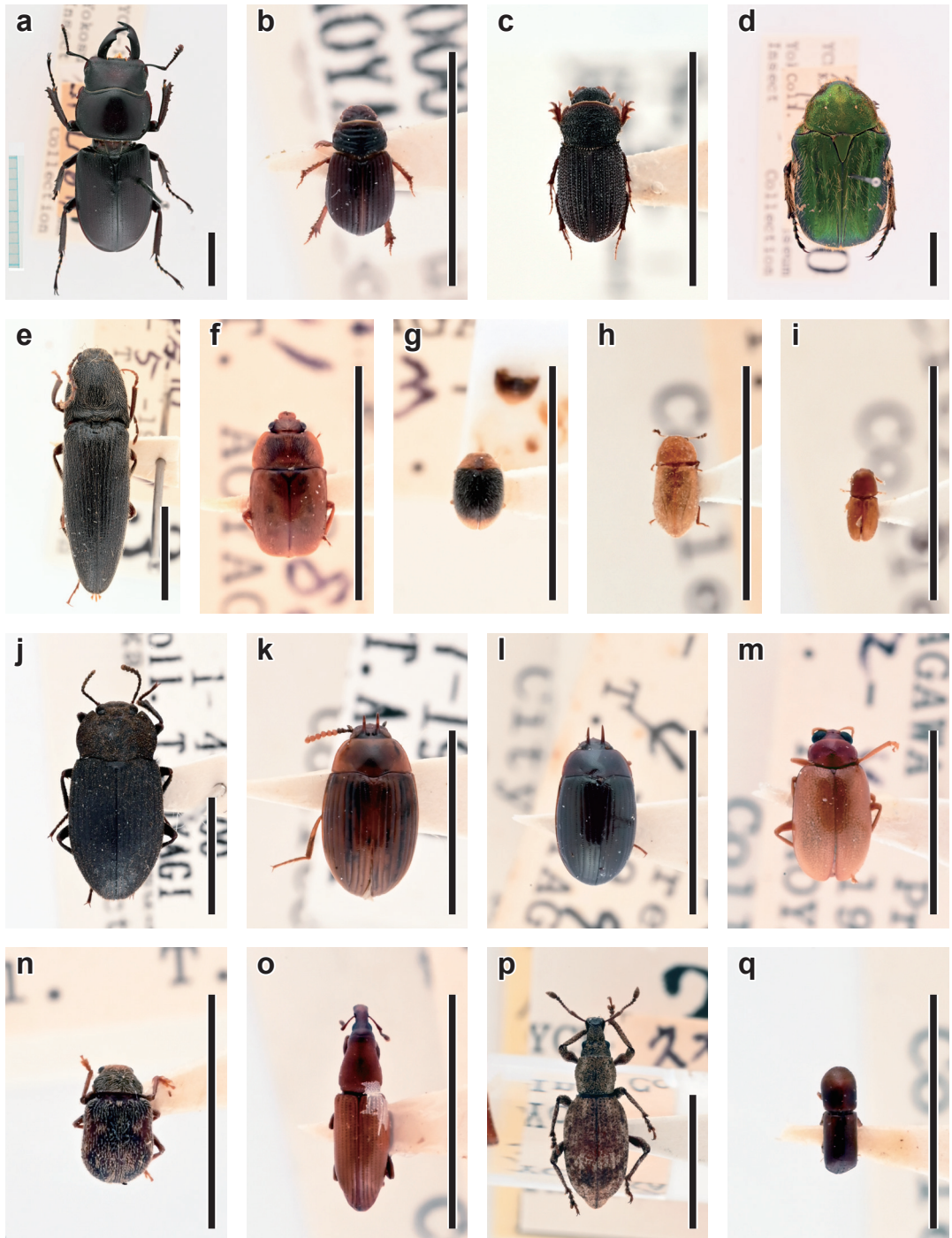
### コメツキムシ科 Elateridae

クロクシコメツキ *Melanotus senilis senilis* Candèze

YCM-I 32263. 黒澤ほか (1985) を参照し、クロクシコメツキに比べ前胸背板などの点刻がよりまばらで光沢が強く、体型はより扁平である特徴により、**ヒラタクロクシコメツキ *Melanotus (Melanotus) correctus* Candèze, 1865** に再同定した (第 1 図 e)。

### ケシキスイ科 Nitidulidae

*Eपुरaea* 属の一種 *Eपुरaea* sp.



第1図 渡・内船 (2012) の掲載種のうち、変更や追加されたもの。和名は本報にて変更・追加後のものを記し、カッコ内には当館昆虫資料の登録番号 (YCM-I) を記す。a スジクワガタ [32227], b セマルケシマグソコガネ [32234], c ニシノホソケシマグソコガネ [32235], d ナミハナムグリ [32240], e ヒラタクロクシコメツキ [32263], f ツバキヒラタケシキスイ [32282], g ニセツマアカヒメテントウ [32298], h ミヤマツツキノコムシ [32314], i ツヤツツキノコムシ属の一種 [32320], j シナスナゴミムシダマシ [32330], k ツノボソキノコゴミムシダマシ [32333], l タケイキノコゴミムシダマシ [32334], m ムネアカウスイロハムシ [32351], n フタモンアラゲサルハムシ [32368], o チャバネキクイゾウムシ [32398], p オビモンヒョウタンゾウムシ属の一種 [32417], q ハギキクイムシ [32421]。スケールはいずれも 5 mm。

YCM-I 32282。黒澤ほか (1985) を参照し、附節の爪の内縁基部に小突起をもつことや (*Micruria* 亜属の特徴)、黄褐色で前胸背板後角の突出は鈍く、上翅側縁は並行状であることなどの特徴により、**ツバキヒラタケシキスイ *Eपुरaea (Micruria) commutata* Grouvelle, 1913** に再同定した (第 1 図 f)。

#### テントウムシ科 Coccinellidae

ツマアカヒメテントウ *Scymnus (Pullus) dorcatomoides* Weise

YCM-I 32298。Sasaji (1971) を参照し、雄交尾器包片の中央片が幅広く、両側が弧状であることなどの特徴により、**ニセツマアカヒメテントウ *Scymnus (Pullus) rectoides* Sasaji, 1971** の♂に再同定した (第 1 図 g)。

#### ツツキノコムシ科 Ciidae

ゴマフツツキノコムシ *Cis hieroglyphicus* Reitter

YCM-I 32314–32317。川那部 (2003) を参照し、上翅の被毛が小楯板の 1/2 未満の長さで列をなさないことや、体型は細長く、上翅に斑紋を欠くことなどの特徴により、**ミヤマツツキノコムシ *Cis nipponicus* Chûjô, 1940** に再同定した (第 1 図 h)。

ツヤツツキノコムシ *Octotemnus laminifrons* (Motschulsky)

YCM-I 32320–32321。従来「ツヤツツキノコムシ *O. laminifrons*」とされてきた種は、Kobayashi & Sota (2019) によって互いに酷似する 4 種 (ツヤツツキノコムシ *O. laminifrons*、クジラタケツヤツツキノコムシ *O. crassus*、サトツヤツツキノコムシ *O. assimilis*、ニシツヤツツキノコムシ *O. kawanabei*) に分類されたが、これらの種は形態的には雄の頭部や交尾器の特徴によって区別される。YCM-I 32320–32321 はいずれも♀であることから、種までの同定を保留し、***Octotemnus* sp. (ツヤツツキノコムシ属の一種)** に再同定した (第 1 図 i)。なお、前述の 4 種のうち、ニシツヤツツキノコムシは東海地方以西に分布し、再記載されたツヤツツキノコムシの確実な分布記録は山地や寒冷地に限られ (小林, 2020)、神奈川県内でも県西部の山地やその周辺でのみ確認されていることから (齋藤, 未発表)、横須賀市三浦富士で採集された YCM-I 32320–32321 はクジラタケツヤツツキノコムシもしくはサトツヤツツキノコムシのいずれかである可能性が高い。

#### ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

コスナゴミムシダマシ *Gonocephalum coriaceum* Motschulsky

YCM-I 32330。Masumoto (1985) および秋田・益本 (2016) を参照し、頭部前縁において頭楯と頬との間に明瞭な切れ込みが認められることや、上翅条溝が深く明瞭であることなどの特徴により、**シナスナゴミムシダマシ *Gonocephalum (Gonocephalum) klapperichi* Kaszab, 1952** に再同定した (第 1 図 j)。本種は神奈川県内では葉山町の 1 例 (沢田, 1991) が知られるのみで (平野, 2004; 平野ほか, 2018)、神奈川県レッドリストにおいて絶滅危惧 I 類とされている (高桑ほか, 2006)。以下に改めてデータを示す。

1ex., 逗子市 (逗子海岸), 20000401, 青柳鷹之介採集, YCM-I 32330。

アオツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema marseuli* Lewis

YCM-I 32333。秋田・益本 (2016) を参照し、体背面に金属光沢を欠き、頭部の角状突起が長く、上翅条溝が深いことなどの特徴により、**ツノボソキノコゴミムシダマシ *Platydema recticornis* Lewis, 1894** の♂に再同定した (第 1 図 k)。

ツノボソキノコゴミムシダマシ *Platydema recticornis* Lewis

YCM-I 32334。秋田・益本 (2016) を参照し、体背面の金属光沢が強く、触角が幅広く、頭楯前縁中央に小突起をもつ特徴により、**タケイキノコゴミムシダマシ *Platydema takeii* Nakane, 1956** の♂に再同定した (第 1 図 l)。神奈川県における本種の分布は県東部に偏在しており、横浜市や川崎市からは多くの記録があるが、円海山周辺を除く三浦半島からは鎌倉市稲村ヶ崎の 1 例が知られるのみであった (平野, 2004; 平野ほか, 2018; 上田, 2024)。

#### ハムシ科 Chrysomelidae

ムナグロツヤハムシ *Arthrotus niger* Motschulsky

YCM-I 32351。木元・滝沢 (1994) を参照し、後附節第 1 節が第 2 節と第 3 節の合計長より明らかに長いことなどのアシナガハムシ属 *Monolepta* の特徴をもつうえ、体長が 4 mm を越え、上翅側片の基部が並行状であることなどの特徴により、**ムネアカウスイロハムシ *Monolepta kurosawai* Chûjô et Ohno,**

1961 に再同定した (第 1 図 m)。

カサハラハムシ *Demotina modesta* Baly

YCM-I 32368。木元・滝沢 (1994) を参照し、腹部末端 3 節の側縁が明瞭な鋸歯状を呈することや、頭楯の幅が長さの 2 倍未満であることなどの特徴により、**フタモンアラゲサルハムシ *Demotina bipunctata* Jacoby, 1885** の ♀ に再同定した (第 1 図 n)。

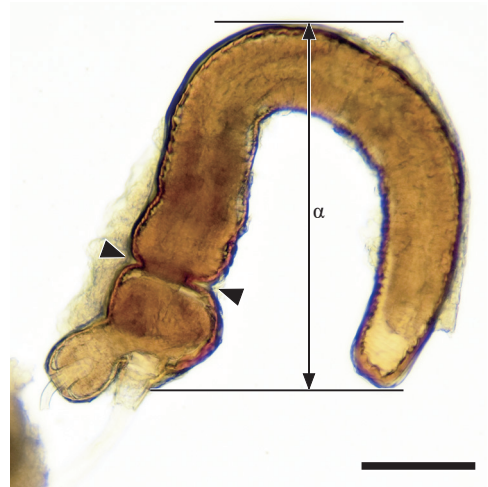
### ゾウムシ科 Curculionidae

*Phloeophagosoma* 属の一種 *Phloeophagosoma* sp.

YCM-I 32398。森本 (1985) および伊藤ほか (2023) を参照し、触角基部が口吻側面の背面寄りに位置することなどの *Kojimazo* 属の特徴および、触角第 1 節が屈曲しないことや、跗節第 5 節は基部から末端に向かって徐々に太まることなどの特徴により、**チャバネクイゾウムシ *Kojimazo lewisii* (Wollaston, 1873)** の ♀ に再同定した (第 1 図 o)。

オビモンヒョウタンゾウムシ *Amystax fasciatus* Roelofs

YCM-I 32417。オビモンヒョウタンゾウムシは従来、本州、四国および九州に分布するとされていたが、地域変異があり、再検討が必要とされていた (林ほか, 1984)。その後、森本ほか (2015) によって日本産のオビモンヒョウタンゾウムシ属が主として ♀ の内部生殖器の受精囊の形状に基づいて側所的に分布する 13 種に分類された結果、再記載されたオビモンヒョウタンゾウムシの確実な分布域は九州および山口県となった。森本ほか (2015) ではこの属の神奈川県産の標本は検討されていないが、神奈川県に最も近い地域としては静岡県富士市から和歌山県北部にかけてヤマトオビモンヒョウタンゾウムシ *A. yamato* Nakamura et Morimoto, 2015 が分布するとされている。一方で平野ほか (2018) では、神奈川県内から過去にオビモンヒョウタンゾウムシとして報告された箱根町および逗子市の記録のうち、箱根町産の標本の受精囊の形状が日本産の既知種とまったく異なるとされ、渡・内船 (2012) による逗子市の記録についても再検討の必要性が指摘されていた。YCM-I 32417 は外部形態から ♀ と判断され、野津 裕氏によって受精囊をはじめとする内部生殖器の形状が検討された。その結果、受精囊 (第 2 図) は長さが 0.3 mm を超え、先葉基部付近に明瞭なくびれが認められる点で分布域の近いヤマトオビモンヒョウタンゾウムシとは明らかに異なり、紀伊半島



第 2 図 オビモンヒョウタンゾウムシ属の一種 (YCM-I 32417) から抽出した受精囊 (野津 裕氏による抽出)。▲ は先葉基部付近のくびれを、 $\alpha$  は森本ほか (2015) の計測方法による受精囊の長さを示す。スケールは 100  $\mu$ m。

南東部に分布するホングウオビモンヒョウタンゾウムシ *A. honguanus* Nakamura et Morimoto, 2015 ほか数種に類似するものの、そのいずれとも一致しないことにより、*Amystax* sp. (オビモンヒョウタンゾウムシ属の一種) に再同定された (第 1 図 p)。以下に改めてデータを示す。

1♀, 逗子市久木 (久木大池), 19880522, 青柳鷹之介採集, YCM-I 32417.

サクセスクイムシ *Xyleborinus saxesenii* (Ratzeburg)

YCM-I 32421。Smith *et al.* (2020) を参照し、小楯板が平面的な舌状であることをはじめとする *Xyleborus* 属の特徴および、前胸背板基半部の光沢が強く、上翅斜面部の第 1 間室は中央から基部と先端に向かって幅が狭まり、大小それぞれ 3 個の歯状突起が認められ、上翅斜面部間室の印刻は微細であることなどの特徴により、**ハギクイムシ *Xyleborus glabratus* Eichhoff, 1877** に再同定した (第 1 図 q)。なお、渡・内船 (2012) ではサクセスクイムシを *Xyleborus* 属としたが、*Xyleborinus* 属に所属が変更されている (サクセスクイムシを含む *Xyleborinus* 属の小楯板は円錐形で、その周囲が毛で覆われる特異な形状である)。ハギクイムシは神奈川県内では 19 世紀に横浜から記録された 1 例 (Blandford, 1894) が知られるのみであった (平野,

2004; 平野ほか, 2018)。以下に改めてデータを示す。

1ex., 葉山町長柄 (二子山), 19881106, 青柳鷹之介  
採集, YCM-I 32421.

### まとめ

今回の再検討により, 渡・内船 (2012) 掲載種から除外される 16 種と, 渡・内船 (2012) 掲載種へ追

加される 17 種を, それぞれ第 1 表に示す。これにより, 「青柳鷹之介氏収集三浦半島産甲虫類コレクション」は 39 科 169 種 223 点となった。なお, 平野ほか (2018) の科レベルの再編結果を反映し, 4 科の減 (ハンミョウ科をオサムシ科へ, マメゾウムシ科をハムシ科へ, チョッキリゾウムシ科をオトシブミ科へ, キクイムシ科をゾウムシ科へ, それぞれ編入) とした。また, 第 2 表には, 誤表記など再同定

第 1 表 本報の再検討により, 渡・内船 (2012) 掲載種から除外された種和名ならびに追加される種和名。カッコ内は渡・内船 (2012) での表記。除外/追加により平野ほか (2018) の「三浦半島」の分布記録に変更が生じる和名に下線を付す。

科和名	除外された種	追加された種
クワガタムシ科	—	スジクワガタ
コガネムシ科	アイヌケシマグソコガネ コケシマグソコガネ アオハナムグリ	セマルケシマグソコガネ ニシノホソケシマグソコガネ ナミハナムグリ
コメツキムシ科	クロクシコメツキ	ヒラタクロクシコメツキ
ケシキスイ科	<i>Eपुरaea</i> 属の一種	ツバキヒラタケシキスイ
テントウムシ科	ツマアカヒメテントウ	ニセツマアカヒメテントウ
ツツキノコムシ科	ゴマフツツキノコムシ ツヤツツキノコムシ	ミヤマツツキノコムシ <i>Octotennus</i> 属の一種
ゴミムシダマシ科	コスナゴミムシダマシ アオツヤキノコゴミムシダマシ ツノボソキノコゴミムシダマシ	シナスナゴミムシダマシ ツノボソキノコゴミムシダマシ タケイキノコゴミムシダマシ
ハムシ科	ムナグロツヤハムシ カサハラハムシ	ムネアカウスイロハムシ フタモンアラゲサルハムシ
ゾウムシ科	<i>Phloeophagosoma</i> 属の一種 オビモンヒョウタンゾウムシ	チャパネキクイゾウムシ <i>Amystax</i> 属の一種
(キクイムシ科)*	サクセスキクイムシ	ハギキクイムシ

\* 平野ほか (2018) に沿ってゾウムシ科の亜科とした

第 2 表 誤表記など, 再同定に伴う変更以外の渡・内船 (2012) に対する正誤表。

渡・内船 (2012) における該当部分	誤	正
p. 26 「カワリキスイ」の種小名*	<i>varianus</i>	<i>varians</i>
p. 27 「ヒメオビオオキノコ」の種小名	<i>fortunii</i>	<i>fortunei</i>
p. 27 「ヒメアカボシテントウ」**の属名	<i>Chilocolus</i>	<i>Chilocorus</i>
p. 28 「チャイロミジンムシ」の種小名	<i>lewisii</i>	<i>rugosus</i>
p. 28 「チャイロミジンムシ」の命名者	(Mathews)	(Mathews)
p. 28 「ヒメホソハマベゴミムシダマシ」の種小名	<i>pallidipnnis</i>	<i>pallidipennis</i>
p. 28 「コスナゴミムシダマシ」の属名	<i>Gonocephalum</i>	<i>Gonocephalum</i>
p. 29 「モモブトカミキリモドキ」の命名者	(Lewis)	(Motschulsky)
p. 30 「カシルリオトシブミ」の種小名	<i>splendus</i>	<i>splendidus</i>
p. 31 「ヒメクチカクシゾウムシ」の種小名	<i>umbrusus</i>	<i>umbrosus</i>
p. 31 「ヒサゴクチカクシゾウムシ」の種小名	<i>simurator</i>	<i>simulator</i>
p. 32 「レロフチビシギゾウムシ」の命名者	(heller)	(Heller)
p. 32 「サクセスキクイムシ」の命名者	(Ratzberg)	(Ratzburg)

\* 現在では *Cryptophagus varianus* は他種の異名とされているため, カワリキスイにあたる種の学名は暫定的に *Cryptophagus* sp. とされている (平野ほか, 2018)。

\*\* 和名は「ヒメアカボシテントウ」がより一般的。

に伴う変更以外の、渡・内船 (2012) に対する正誤表を付す。渡・内船 (2012) は、ザウテルマメゾウムシ *Sulcobruchus sauteri* (Pic) (YCM-I 32345) を「神奈川県初記録」としたが、平野 (2007) に言及されているとおり、平野ほか (2006) の記録が神奈川県初記録である。

ニシノホソケシマグソコガネは神奈川県からは初記録となった。シナスナゴミムシダマシとハギキクイムシの記録はいずれも神奈川県からは2例目で、後者はおよそ100年ぶりの記録となった。ただし、ニシノホソケシマグソコガネは比較的最近記載された種で、シナスナゴミムシダマシも黒澤ほか編 (1985) に掲載されていないことから、これまでほとんど知られていなかったと考えられ、近似種の記録の再検討を含めて今後の分布調査の進展が期待される。一方、オビモンヒョウタンゾウムシは神奈川県における分布が削除されるが、本報告の「オビモンヒョウタンゾウムシ属の一種」は未記載種であると考えられ、今後の分類学的な検討が望まれる。

本報冒頭で触れたとおり、「青柳鷹之介氏収集三浦半島産甲虫類コレクション」は、平野ほか (2018) に引用されている渡・内船 (2012) の証拠標本としての価値をもつことから、本コレクションの再同定にともなう渡・内船 (2012) の掲載種の削除/追加は、平野ほか (2018) における一部の種の神奈川県内の分布について更新を必要とする。すなわち、

神奈川県における分布を追加する種：ニシノホソケシマグソコガネ。

三浦半島における分布を追加する種：ハギキクイムシ。

神奈川県における分布を削除する種：オビモンヒョウタンゾウムシ。

三浦半島における分布を削除する種：コケシマグソコガネ。

報告にあたり、オビモンヒョウタンゾウムシ属の未記載種を再同定いただいた野津裕氏 (神奈川県昆虫談話会) に深く感謝申しあげる。本研究はJSPS 科研費 JP21K01011 の助成を受けた。本コレクションが当館に収蔵されるに至った経緯は渡・内船 (2012) に記したとおりである。その過程に深く関与され、今回の再同定作業においても立ち合いご助言を賜った露木繁雄氏は、2025 年末に逝去された。ここに生前賜ったご厚情とご協力に深く感謝するとともに、謹んで哀悼の意を表する。

## 引用文献

- 秋田勝己・益本仁雄 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. 302 ページ. むし社, 東京.
- Blandford W. 1894. The Rhynchophorous Coleoptera of Japan. Part III. Scolytidae. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1894**: 53–141.
- 林 匡夫・森本 桂・木元新作 編著 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV). 438 ページ. 保育社, 大阪.
- 平野幸彦 2004. コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫談話会編, 神奈川県昆虫誌 2004, [II]: 335–835. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 平野幸彦 2007. 続・神奈川県甲虫誌 III. 神奈川県報, (157): 1–10.
- 平野幸彦・秋山秀雄・松原 豊・守屋博文・西川正明・野津 裕・高橋和弘・滝沢春雄・露木繁雄・渡辺 崇 2018. コウチュウ目 Coleoptera. 西川正明・菊部治紀・渡辺恭平 (編), 神奈川県昆虫誌 2018: 227–639. 神奈川県昆虫談話会, 小田原.
- 平野幸彦・高橋和弘・槐 真史 2006. 厚木市七沢・大山のコウチュウ目. 厚木市教育委員会 (編), 厚木市郷土資料館資料集, (20): 3–90.
- 伊藤 淳・上田衛門・山崎裕志 2023. ササチャバネキクイゾウムシとチャバネキクイゾウムシの東京都・神奈川県からの記録および両種の形態比較. さやばねニューシリーズ, (50): 9–12.
- 川那部 真 2003. 日本産ツツキノコムシ科検索図説 II. 甲虫ニュース, (143): 1–6.
- 木元新作・滝沢春雄 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539 ページ. 東海大学出版会, 秦野.
- 小林卓也 2020. ツヤツツキノコムシ属 4 種の記録と和名. さやばねニューシリーズ, (40): 56–57.
- Kobayashi T. and Sota T. 2019. Divergent host use among cryptic species in the fungivorous ciid beetle *Octotemnus laminifrons* (Motschulsky, 1860), with descriptions of three new species from Japan. *Systematic Entomology*, **44**(1): 179–191.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 編著 1985. 原色日本甲虫図鑑 (III). 500 ページ. 保育社, 大阪.
- Masumoto K. 1985. The Japanese Species of the Genus *Gonocephalum* (Coleoptera, Tenebrionidae). *Elytra*, **12**(2): 27–37.
- 森本 桂 1985. キクイゾウムシ類概説 III. キクイゾウムシ亜科 (2). 家屋害虫, (23/24): 19–28.

- 森本 桂・中村剛之・官能健次 2015. 日本の昆虫 Vol. 4, ゾウムシ科 クチブトゾウムシ亜科 (2) . 758 ページ . 権歌書房, 福岡 .
- 岡島秀治・荒谷邦雄 監修 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑, 444 ページ . 学研教育出版, 東京 .
- Sasaji H. 1971. Fauna Japonica, Coccinellidae (Insecta: Coleoptera). 340pp., 16pls. Academic Press of Japan, Tokyo.
- 沢田和宏 1991. シナスナゴミムシダマシの採集記録 . 月刊むし, (250): 7-8.
- Smith S. M., Beaver R. A. and Cognato A. I. 2020. A monograph of the Xyleborini (Coleoptera, Curculionidae, Scolytinae) of the Indochinese Peninsula (except Malaysia) and China. *ZooKeys*, **983**: 1-442.
- 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 編 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006. 442 ページ . 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原 .
- 上田衛門 2024. 神奈川県内で朽ち木とキノコから得られた甲虫の採集記録 . 神奈川虫報, (212): 55-56.
- 渡 弘・内船俊樹 2012. 横須賀市自然・人文博物館所蔵 青柳鷹之介氏収集三浦半島産甲虫類コレクション目録 . 横須賀市博物館資料集, (36): 21-39.